



ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

3月中旬の夜8時頃、星空を見上げると、冬の星座と春の星座が空を二分するように並んでいます。《冬の**大三角**》は少し西へ傾き、南西の空には、《冬の**大六角形**》や《冬の**ダイヤモンド**》と呼ばれる、冬の星座たちの1等星でつくる六角形が、まだよく見えています。この六角形の最も天頂に近い角にあたる「ふたご座」の1等星ポルクスとすぐ傍に仲良く並ぶ同じく「ふたご座」のカストルは、日本ではひな祭りの頃に天高く昇ることから、「ひなまつり星」と呼ばれています。そこから少し南東に目を向けると、春の代表的な星座「しし座」の前足の付け根に輝く1等星レグルスが見えます。レグルスは全天21個の1等星の中では一番暗い星ですが、暗い星が多い春の星座が並ぶ南東の空では、目立つので見つけやすいです。

さて、星占いで馴染み深い「しし座」と「ふたご座」が見つかったので、同じく黄道（太陽の通り道）に並ぶ星占いの星座を探してみましょう。「しし座」の東には「おとめ座」が、「ふたご座」から西に辿ると「おうし座」が、さらに西には「おひつじ座」が見えます。そして、「しし座」と「ふたご座」の間には、少し暗いですが「かに座」があります。

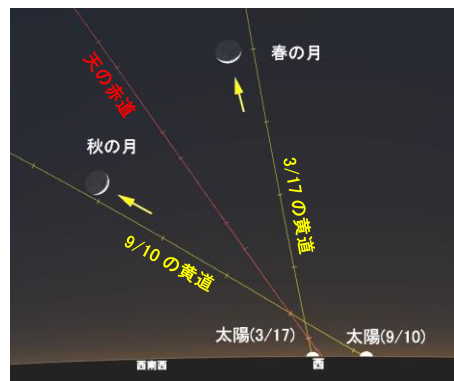
この「かに座」の甲羅の部分にある4つの明るい星に囲まれた**プレセペ星団（M44）**は、肉眼ではぼんやりしていますが、望遠鏡や双眼鏡で見るととてもきれいです。ぜひ望遠鏡や双眼鏡でプレセペ星団を探し、星々のきらめきを楽しんでください。



図はステラナビゲーター11の星図を元にして作成

★ 横たわるような夕方の上弦の月

月は実際の形が変わるわけではありませんが、太陽の光を浴びて光る部分の形が、約1か月周期で変わります。真っ暗な新月から、一部が暗く欠けて見える三日月や半月を経て、真ん丸に輝く満月へと徐々に明るい部分を増やし、満月を境に、今度は徐々に欠けていき、また新月へと戻ります。新月を始点とした満月までの前半（上旬）の月を、丸い月の輪郭部分を「弓」に見立てて「上弦の月」と呼び、満月から新月までの後半（下旬）の月を「下弦の月」と呼びます。月の光る部分と影の部分の境目の部分を「弦」にたとえると、「上弦の月」の期間は、月が西へと沈む時に「弦」が上側、逆に「下弦の月」の期間には「弦」が下側に來るので、覚えておくと一目でどちらの月かわかります。3月は、13日が新月で、15日頃から少しずつ太さを増す「上弦の月」が、夕方の西の空に横たわるように見えるようになります。これは、西へと沈んだ太陽が月の真下に近い方向にあって、月が下から太陽に照らされるためです。しかし、一年中のいつでも同じように見えるわけではなく、例えば9月頃の秋には、太陽は月を右斜め下から照らすので、もっと斜めに見えます。春は、おぼろ月（かすんだ空にかかる月）の季節ですが、この月の光っている部分の形にも注目して観察してみてください。



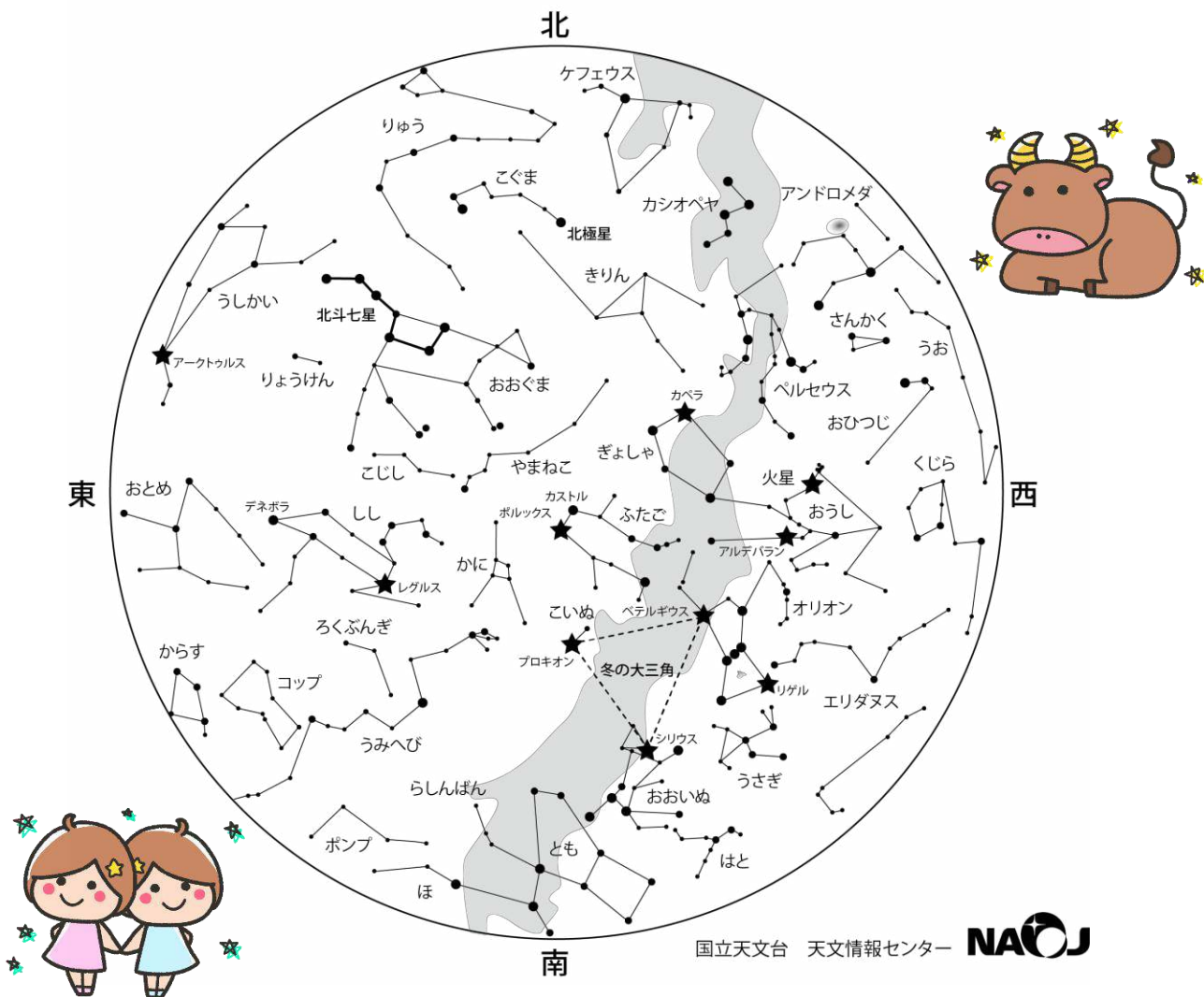
★ 3月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 3/1(月)、8(月)、15(月)、17(水)、22(月)、23(火)、29(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。



3月上旬午後9時頃の星空



★ 3月上旬の主な天文現象

5日(金) 水星と木星が接近、啓蟄	8日(月) 小惑星ベスタが衝
6日(土) 下弦、 水星が西方最大離角	11日(木) 月が木星に接近
	13日(土) 新月

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 3/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 3月11日(木) [見やすさ ◎]	5:18 北西	~	5:24 東南東
◇ 3月12日(金) [見やすさ ◎]	4:32 北北西	~	4:37 東南東
◇ 3月13日(土) [見やすさ ◎]	5:20 西北西	~	5:26 南南東
◇ 3月14日(日) [見やすさ ◎]	4:35 天頂	~	4:39 南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。